

2022年6月19日
キリストの聖体の主日
菊地功大司教 メッセージ

聖体は一致の秘跡です。

第二バチカン公会議の教会憲章には、「聖体のパンの秘跡によって、キリストにおいて一つのからだを構成する信者の一致が表され、実現される(3)」と記されています。

聖体は、わたしたちを分裂させ分断させるのではなく、キリストにおいて一致するようにと招く秘跡です。なぜならば、それこそがキリストご自身のわたしたちへの心であり、あふれ出る神のいつくしみそのものの具体化だからであります。

ルカ福音は、五つのパンと二匹の魚が、五千人を超える群衆の空腹を満たした奇跡物語を記します。この奇跡は驚くべき事ですが、この物語にはもう一つ重要な事柄が記されています。それは空腹を抱える多くの人を解散させようとする弟子たちに対して、イエスは、「あなた方が彼らに食べ物を与えなさい」と述べ、散らすことではなく一致へと結びつけるための業を行うように命じていることです。まさしくこの言葉にイエスの思いが記されています。自らにつながって一致していることこそが、救いへの道であることを、イエスはこの言葉を持って明確に示されました。

神の民としてともに旅をするわたしたちを一致させるのは、「あなた方が彼らに食べ物を与えなさい」と命じられた、主イエスのわたしたち一人ひとりへの思いです。それは聖体に凝縮されたイエスのみこころであり、まさしく聖体のうちに現存する主は、聖体を通じてわたしたちをその絆で結び、わたしたちと歩みをともにされます。

聖体のいけにえは「キリスト教的な生活全体の源泉であり頂点」であって、感謝の祭儀にあずかることで、キリスト者は「神的いけにえを神にささげ、そのいけにえとともに自分自身もささげる」と教会憲章は指摘します(11)。

教皇ヨハネ・パウロ二世は、「教会にいのちを与える聖体」において、「罪の結果として、不和の根源が人間性のうちに深く根ざしていることは、日々の経験から明らかです。この不和の根源に対抗できるのは、キリストのからだをもたらす一致の力です（24）」と記します。

分裂と分断が支配する現代社会にあって、わたしたちは聖体の秘跡を通じて、罪のいやしと一致へと招かれています。

私事ですが、5月の末に体調を崩し、検査の結果、新型コロナ陽性と診断を受けました。のどの痛みと発熱の中、自宅療養で、全く誰とも会わずに十日間を過ごしました。現在は無事に回復しましたが、その間、皆様にいただいたお祈りとお見舞いの言葉に、心から感謝します。隔離生活をすごしながら、あらためてわたしたちは、他の方々によって生かされていることを実感させられました。直接に間接に、わたしたちは他者の力によって生かされています。私たちのいのちは、まさしく「互いに助けるもの」として生きるようにと与えられています。いのちを生かすのは分裂や分断や対立ではなく、一致であります。

一致のうちにとともに歩む旅路を導くシノドスの準備文書には、その特徴がこう記されています。

「洗礼を受けたすべての人は、・・・それぞれのカリスマ、召命、奉仕職を実行することによって、キリストの祭司職、預言職、王職に参加し、個人としても神の民全体としても、福音化の能動的な主体となるのです」。

聖体の秘跡のうちに、多様性における一致を生きたいと思います。